

平成28年度第2回稲毛区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

【開催】

- 1 日時 平成28年12月13日（火）10時00分～12時00分
- 2 場所 稲毛保健福祉センター 3階 大会議室
- 3 出席者 委員 28名中 23名出席
事務局 稲毛保健福祉センター 所長、高齢障害支援課2名
稲毛区地域振興課 地域づくり支援室長
保健福祉局地域福祉課 1名
社会福祉協議会稲毛区事務所 所長以下3名

【次第】

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 稲毛区支え合いのまち推進計画の平成28年度の進捗状況について
 - (2) 支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）の発行について
 - (3) 次期地域福祉計画について
 - (4) 身体障害者に対する地域での支援について
 - (5) グループワーク「地域住民の参加による支援や見守り」
 - (6) その他
- 3 閉会

【議事要旨】

議題1 稲毛区支え合いのまち推進計画の平成28年度の進捗状況について

事務局から、稲毛区支え合いのまち推進計画の平成28年度の進捗状況について、概要を資料により説明した。
特に意見はなかった。

議題2 支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）の発行について

事務局から、前回の協議会で選出を保留していた広報委員に、生活支援コーディネーターの佐藤キヨ子委員を選出したこと、及び広報委員会で、次号の記事として「子ども食堂・こどもカフェ」、「携帯型安心カードの普及」、「緑ンピック」を掲載することを決定し、資料のとおり第21号（案）を年内に発行する予定であることを説明した。また、第22号で掲載してほしい記事があれば、事務局に連絡するよう依頼した。
特に意見なく、推進協だよりの発行について、案のとおり承認された。

議題3 次期地域福祉計画について

事務局から、現時点（平成28年度第2回千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会（平成28年11月24日）開催時）での「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉

計画)」の策定方針（案）と骨子（案）等について、資料により説明し、質疑応答を行った。

<主な質疑応答>

委 員	地域運営委員会が、今後は推進協議会に関わってくるということであるが、私の地域ではこれから地域運営委員会立ち上げようとしている最中であり、よくわからない。地域運営委員会の関わりについて、教えてほしい。
事務局	地域運営委員会の設立については、地域の方々に自主的に取り組んでいただいているが、市内で13か所しか設立されていない。また、推進協議会との関係の整理については、市民局が関係課を集めて取り組んでいるところである。 次期地域福祉計画においては、地域運営委員会が設立された地域では、地域運営委員会が重点取組項目の設定を行うことができるようにするという事を考えているが、地域で話し合っていて、今までどおり社会福祉協議会地区部会が重点取組項目を設定することもできるようにしたいと考えている。
委 員	地域運営委員会は、社会福祉協議会地区部会がイニシアチブをとっていくということか。
事務局	社会福祉協議会地区部会が地域運営委員会のイニシアチブをとるということではない。社会福祉協議会地区部会は、町内自治会連絡協議会や民生委員児童委員協議会などと同様、地域運営委員会の構成団体の一つである。

議題4 身体障害者に対する地域での支援について

千葉市身体障害者連合会の伊藤委員から、稲毛区に住む聴覚障害者・視覚障害者・身体障害者から出された地域への意見・要望について、資料により説明し、質疑応答を行った。

<主な意見>

事務局	社会福祉協議会各地区部会では、地域の人材育成を図るためボランティア講座を毎年行っているが、障害者に関するものはあまり行われていなかった。次年度事業計画を策定するなかで、障害者に関する講座の開催をご検討いただきたい。 また、社会福祉協議会稲毛区事務所では、小学校に身体障害者の講師を派遣し、福祉教育に取り組んでいる。今後、福祉教育をさらに推進していく必要があるので、小学校とも話し合っ、て、障害者の理解を図る授業を増やしていくことに取り組んでいきたい。
委 員	社会福祉協議会稲毛地区部会では、障害者への理解を図るため、「ふれあい広場」という子ども達が集まる場で必ず手話を学ぶ時間を設け、「四季の歌」を手話で歌えるよう取り組んでいる。 地区部会主催の敬老会でも、手話を学ぶ時間を設けており、好評である。

議題5 グループワーク「地域住民の参加による支援や見守り」

委員の住所等により4つのグループに分かれて、「地域住民の参加による支援や見守り」に関する課題の解決に向けた意見交換を行った。

グループ①山王／草野地区部会エリア

グループ②小中台東／小中台西／緑が丘地区部会エリア

グループ③轟・穴川／301（作草部・天台）／千草台中学校／弥生地区部会エリア

グループ④稲丘／稲毛／緑・黒砂地区部会エリア

<各グループから出された主な意見>

地域の現状 (問題点等)	・家に閉じこもり、近所との交流を持とうとしない高齢者が多く、さまざまなイベントを企画しても、出てこない。民生委員が訪問しても出てこないため、話すらできない ・役員任期が1年のため毎年役員が変わる自治会があり、経験が蓄積しないため自治会が弱体化している。 ・自治会のなかでも関わりが薄くなっている。 ・住民同士のつながりが薄くなっている（特にマンション）。 ・自分が困っていることをなかなか発信しない高齢者がいて、大事になってから発覚することがある。
円滑な推進を 妨げる要素 (原因)	・60歳より上の世代は、他人の世話になりたくないという傾向がある。 ・男性は、定年退職するまで地域に出ることがあまりないため、60歳を過ぎてから地域に出ることにためらいがある。 ・地域内の意見の相違があり、力の強いリーダーが育たない。 ・地域の担い手に若い世代がいない。 ・支援が必要な世帯を把握したくとも、個人情報保護が枷になって、情報がなかなか入ってこないし、また出しにくい。
課題の解決策	・閉じこもる高齢者については、信頼関係ができるまで粘り強く接する。その方と話ができる方を探して、イベントの際は一緒に来てもらうようにする。 ・支援が必要な人に対しては、「監視しないでほしい。」「お節介だ。」と嫌がられないように、ゆるやかな見守りが必要である。 ・あいさつから始める地域づくりも大切。 ・高齢者が気軽に立ち寄り交流することができる場所が、歩いて行ける範囲にあるとよい。 ・地域でどのような支援が求められているかニーズを探るためのアンケートを実施する。併せて、支援ができる人も探すことができればよい。

議題6 その他

事務局から、第3回推進協議会について、3月に開催することを説明した。